

患者の不安を取り除き チームで支える治療を

医療法人 創起会 くまもと森都総合病院

にしむら れいき
西村令喜 統括副院長



医療法人 創起会
くまもと森都総合病院
熊本市中央区大江3-2-65
☎096-364-6000(代表)
<https://www.k-shinto.or.jp/>



熊本県外からも多くの患者が訪れるくまもと森都総合病院の乳腺センター。その設立に関わり、これまでに多くの乳がん患者の治療に当たってきた西村令喜統括副院長に、時代と共に変わる乳がん治療、医療者としての在り方について、話を聞いた。

に移ってきました。

乳がんの患者さんを5000人診てきましたが、気

になつてきたのが診察や検査の不便さ。診察室、マン

モグラフィー検査、超音波

検査、細胞診検査などが別々にあり、患者さんが何度も

着替えなくてはならないなど、不自由がありました。

乳腺センターでは、広い

スペースが確保でき、待合

室や相談室、検査室などが

一つの部屋の中にあります。

利便性が向上したことで、

受診を希望する患者さんも

さらに増えました。

乳がんの患者の傾向は。

2 014年の調査で11

人に1人の割合。患者

数は増加傾向にあると言

われています。当院にお

ける昨年1年間の乳がん手術

数は400人超。毎週8人

〜10人を手術している計算

です。

他のがんに比べて、若い

人が多く、ピークが40代後

半と60代前半。欧米は60代

が多いのですが、なぜか日

本を含めアジアでは、40代

が多いのが特徴です。

有名なタレントさんなど

の影響で、受診率も2割

現在の治療法は。

が んの性質に合わせた

治療を行っています。

乳がんの7〜8割は、女性

ホルモンの影響が大きく、

その場合はホルモン治療が

有効です。HER2型につい

ては、HER2を抑える治

療。進行が早いがんは、抗

がん剤がより効きます。

昔の選択肢は乳房の切除

でしたが、今はさまざまな

方法があります。手術の前

にがんを小さくして乳房を

残す方法や、乳房再建術も

あります。分子標的治療も

広まってきています。いろ

いろな組み合わせの治療を、

患者さんと相談しながら

行っていく時代になってい

ます。

最近、米国の女優さん

で話題となった「遺伝性乳

がん卵巣がん症候群」が話

題です。血液検査で調べる

ことができ、薬剤も開発さ

れました。

乳がんは、10年以上たつて再発する場合があります。

ただし、性質を見極めることで、いつごろ再発するかまで分かってきました。

どのような取り組みを。

チーム医療で取り組んでいます。診察室で

医師が話を聞くだけでは限界があります。診察の前後

に看護師が話を聞く、薬を

渡す時に薬剤師が話す、マ

ンモグラフィや超音波の

時に技師が話をする。情報

をみんなで共有し、チーム

として、患者さんの不安を

取り除くようにしています。

院内には、「チーム医療研

究会」があり、新しい治療

の勉強はもちろん、一人一

人の患者さんについての情

報を共有。この患者さんに

はどのような治療や対応が

いいのか、みんなで話し合っ

ています。

さらに、理学療法士や栄

養士、医療ソーシャルワ

ーカー(MSW)、腫瘍精神科

の医師も含め、病院全体で

患者さんを支えています。

以前であれば、医師が治

療方針を決めていました。

今は、十分な説明のもとに、

医療従事者と患者家族とが

情報を共有し、相談しなが

ら治療法を決める時代で

す。「チームで支える」と

いうことは、人間としてど

う接するべきなのか、そこ

につながっていくと思っ

ています。



1976年山回大学医学部卒業、熊本大学第2外科入局。熊本市立熊本市民病院首席診療部長、同副院長、くまもと森都総合病院副院長などを経て、2015年から現職。

市

乳腺センター開設から4年。

市民病院から移ってきたのが2015年4月。念願であった乳腺センターを実現できる環境がある「くまもと森都総合病院」に、一部の患者さんも一

緒

さらに増えました。